

岡山県医師会長選挙 立候補にあたって

会長候補者 松山 正春

平成 30 年に、第17代岡山県医師会長に就任してから5年10カ月が過ぎました。石川前会長のもとで理事、副会長として薫陶を受けさせていただいており、何とか重責を全うできるのではないかと甘い考えで職に就きました。

ところが、皆様ご存じのように就任3週間後の平成30年7月6日、岡山県は線状降水帯に襲われ、所謂“西日本豪雨災害”が発生しました。7月中は、吉備医師会の先生方と協力しながら地元の医療機関の復旧、避難所の救援に尽力しました。廃業された先生もいらっしやいましたが、年内には地域の医療も何とか復興できました。地元、吉備医師会の先生方の努力の賜物と敬意を表すると同時に、ご協力いただいた JMAT はじめ多くの会員には感謝します。

その後1年間は、医師会活動は平時に戻り、私のライフワークである「移動会長室事業」に邁進できると意気込んで活動していましたが、1年後には新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい始めました。3年間はコロナの火消し役としての活動に専心しました。勿論、会員の先生方にも、PCR 検査、発熱外来、ワクチン接種と奮迅の活躍をしていただいたおかげで、昨年5月8日でコロナも「5類」に移行し、一応の収束をみました。これも会員の先生方のプロフェッショナルオートノミーによる活動のおかげと感謝すると同時に、先生方は、何度も言いますが、私の誇りとするところです。

新年度になります。今年トリプル改定の年でもありました。既に、先生方も試算などしていただいていると思いますが、なかなか厳しい改定であったと思います。財務省のいうマイナス1%以上となるのではないのでしょうか。加えて、光熱費をはじめとする物価高騰についても補助金だけではとても賄えません。とはいいいながら、患者さんは先生方を待っています。日常診療もこれからは、プロフェッショナルオートノミーで行うことになります。岡山県医師会として、取れるものは全て取るというために、近いうちにその一覧をお届けする予定です。今回の改定については、十分な検証が必要となります。日本医師会においても、訴えていかなければなりません。

さて、私は4期目の立候補ということですが、就任時に立ち上げたプロジェクト「移動会長室」を推進していきます。この事業は、産業医科大学公衆衛生学 松田晋哉教授からも高く評価され、また、「第13回杉浦地域医療振興賞」をいただけることになりました。7月には帝国ホテルで表彰式が行われる予定です。今後も ACP・人生会議、フレイル等を中心に進めていきます。

地域医療構想、地域包括ケアシステムについても、2025年のゴールを迎えます。目に見える成果はありませんが、これまでの議論や各医師会などで行われた事例が、2040年、2050年の医療提供体制の構築に向けた踏切台になることを期待しています。

私は、常々、“趣味は医師会”と豪語していますが、趣味とは“夢中になれること”です。後2年間、夢中になって集大成を行いたいと思います。ご支援をよろしくお願いいたします。